

人文学部卒業研究

テレビアニメにおける人体と人型

題 目

ロボットの欠損描写の境界線

指導教授

小川 順子

印

提出年月日

2019年 12月 12日

学籍番号

HI15025

氏 名

坂上悠真

お願い

本卒業研究は、著作権の関係上、指導教員または執筆者本人の許可を得たうえでの閲覧のみを許可し、複写およびPDF等によるデータの受け渡し等は、一切禁止する。

万が一、禁止が破られトラブルが発生した場合、本卒業研究の関係者は一切の責任を負わない。

何卒ご了承ください。

テレビアニメにおける人体と人型ロボットの欠損描写の境界線

HI15025 坂上悠真

要旨

本論の目的は、人間では規制される欠損描写が、なぜ人型ロボットは規制対象外なのか、人間の欠損描写でもどのような欠損描写なら規制対象外となるのか、その限度を捉えることで、今後のテレビアニメや漫画における欠損描写という表現方法を、過度な表現規制から守る事である。

本論の構成は、以下の通りである。一章では、人型ロボットが登場する三作品を比較し、人型ロボットの欠損描写が規制されない理由を考察した。篠田（2015）の〈からだ〉と〈み〉の身体論を利用し、〈からだ〉である人型ロボットが欠損しても〈み〉であるパイロット、ひいてはパイロット自身の〈からだ〉と〈み〉まで欠損が及ばない事、人型ロボットの欠損描写は人間の欠損描写ほど痛々しい印象を視聴者に与えないため、人型ロボットの欠損描写には規制がかからないとした。二章では『鋼の錬金術師』を分析対象とし、時代の変化による人体の欠損描写を巡る表現方法の変化、漫画での欠損描写とアニメでの欠損描写との比較を行った。時代の変化に伴って欠損描写の表現方法も変化したが、流血描写の簡略化は作画の負担の軽減と、欠損描写が視聴者に与える痛々しい印象を軽減させる役割を果たしていた。漫画とアニメの欠損描写を比較すると、アニメは特に欠損箇所の断面の描写と、それに付随する流血描写に対してかなり気を遣っている事が分かった。一方で、マクルーハン（1967）の挙げたテレビというメディアの特徴は、欠損描写と特に相性が悪いと言える。これを解決するために、三章では『ワールドトリガー』を分析対象として、全年齢層において最低限視聴に耐えうる欠損描写のラインを摸索した。欠損の瞬間や部位、それによる切断面を極力描写しない事に加え、欠損描写の際のキャラクターのリアクションを痛ましくみせないよう描写することで、全年齢層が視聴可能な最低限の欠損描写の条件の一つを設定出来た。また、BPOの「視聴者意見を読む」を分析すると、視聴者も人型ロボットの欠損描写に対して問題意識を持っていない一方で、テレビアニメでの欠損描写や暴力シーンの際の、流血描写に対して嫌悪感を抱いている事が分かった。

結論として、人型ロボットの欠損描写が規制されないのは、〈からだ〉が傷ついても〈み〉が傷ついたという事を視聴者に極力感じさせない欠損描写だからであり、この基準はそのまま人間の欠損描写でも規制対象外に出来る一つの基準として設定できる。また、欠損描写の際の流血描写の抑制、欠損を受けたキャラクターのリアクションを大げさにしないという基準を設ける事で、人間の欠損描写でもある程度自由に表現出来るようになるだろう。

キーワード

欠損描写 人型ロボット 〈からだ〉と〈み〉 流血描写

目次

序論.....	1
一章：ロボットアニメにおける欠損描写—『エヴァンゲリオン新劇場版：破』、『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ』、『交響詩篇エウレカセブン』	2
1.各作品の概要.....	2
2.三作品の比較.....	3
二章：欠損描写の時代による変化、及び他媒体との違い—『鋼の錬金術師』	7
1.作品概要.....	7
2.『鋼の錬金術師』（2009年版）と『北斗の拳』の比較.....	7
3.2003年版と2009年版のアニメによる違い	11
4.アニメと漫画での違い	14
三章：広く受け入れられる欠損描写とは何か—『ワールドトリガー』	18
1.作品概要.....	18
2.アニメ内での欠損描写と原作の欠損描写の比較.....	19
考察・結論.....	21
参考文献	27
参考サイト.....	28
画像出典	30